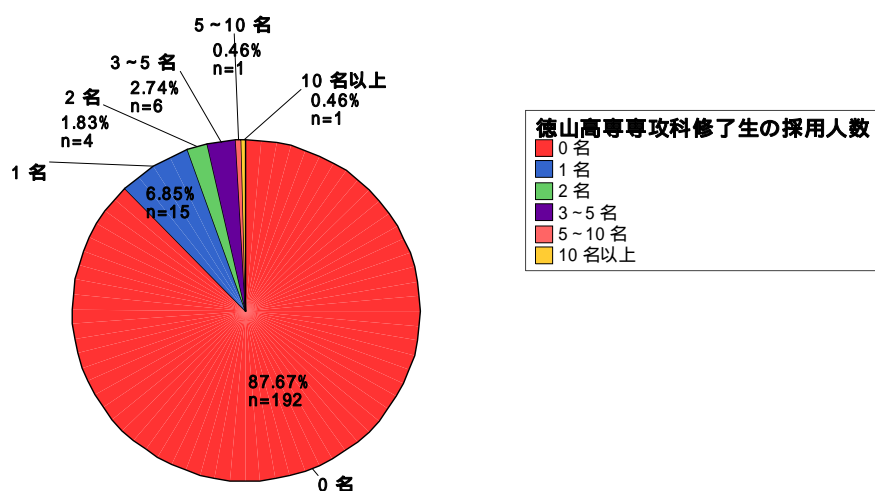


## 第4章 専攻科修了生に対する社会的評価

### 4.1 はじめに

徳山高専の本科卒業生あるいは専攻科修了生に対する社会的な評価を調査するため、それぞれが就職した企業のうち 233 件、本校に求人票を送付いただいた企業のうち 291 件、県内の各企業 401 件、ならびに地方自治体・官公庁 35 件に対してアンケートを実施した。

本章では、その結果から徳山高専専攻科修了生に対する評価に焦点を絞り、本科卒業生および平成 14 年度実施のアンケート結果と比較を行いながら、企業側から見た専攻科修了生の評価について分析を行った。なお、本アンケートを送付した企業のうち、徳山高専の専攻科修了生を採用している企業は 27 社であり（下図参照）、アンケート回答総数に占める割合は約 10.0%（徳山高専以外の専攻科修了生は 80 社、29.9%）であった。以下、各アンケート結果についての分析を行う。



### 4.2 アンケート結果の分析

#### (1) 徳山高専の専攻科修了生の平均的な仕事（勤務成績）に対する評価【企業質問3】

図4-1に示すように、“非常に満足”と“満足”を合わせて 81.5%であり、前回アンケートの 63%比較して大幅に向上している。なお、“非常に不満”と答えた企業も 1 社あった。

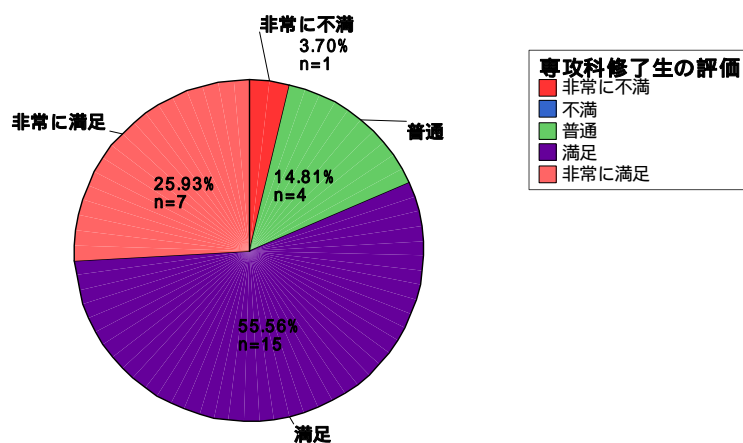


図4-1 徳山高専の専攻科修了生の平均的な仕事（勤務成績）に対する評価

#### (2) 徳山高専の複合教育に対する評価【企業質問4】

この質問は、徳山高専本科卒業生を採用した企業の回答も含めたものであるが、「適切である」と答えた企業が76%だった。これは前回アンケートの82%と比較すると若干下がっており、複合教育については社会的にもその有効性が認められているものの、より複合性をもたせる意見とより専門性に特化する意見の両方が増加し、企業ニーズが多様化していることが伺える。

#### (3) 徳山高専の教育目標に見合うだけの実力がついてきているかについての評価【企業質問5】

6項目すべてについて、4段階評価の3以上が55～80%あり、本校の教育目標に見合った実力が概ね身についていると判断されている。これらの中で、項目2の「国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」において「不満」と答えた企業が44.8%（13社）もあり、6項目の中で最も評価が低い。本科卒業生に対する評価でも、項目2は他の項目に比べて「不満」と回答した企業が多いが、「不満」と「非常に不満」を合わせて30.7%であり、項目2については専攻科修了生に対する評価が厳しいことがわかる。

また、教育目標の中で重要であると思われる項目を聞いたところ、項目6の「課題を把握し解決する能力を身につけ、感性、創造性を養う」という項目については61.0%、項目4の「自主性自立性を養う」という項目については37.4%の企業が重要と答えている。この項目4および項目6については、専攻科修了生に対する企業の評価は高く、企業が求める人材に合致した教育が実施された成果といえる。

#### (4) 専攻科修了生の英語力評価【企業質問6】

これは、徳山高専のみならず一般的な専攻科修了生を採用した企業の回答である。図4-2に示すように、専攻科修了生の英語力については「満足」が5.7%、「普通」が74.3%である。前回アンケートに比べて、「満足」および「不満」はともに減少し、「普通」が増加している。本科卒業生の英語力評価と比較すると、「満足」は本科卒業生の4.3%よりも高く、「不満」は本科卒業生の21.3%に比べて低い。このことは、本校も含めて全国の高専専攻科において、十分な英語教育が実施されていることの成果であると考えられる。

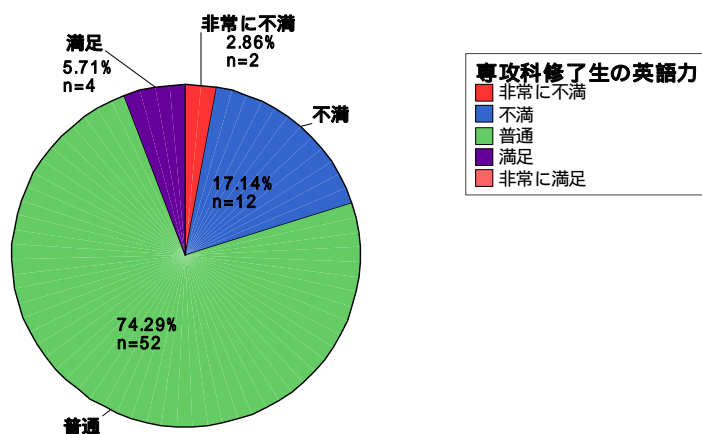


図4-2 専攻科修了生の英語力評価

#### (5) 大学の卒業生と比較した場合、優れている点について【企業質問7】

これは、徳山高専も含めた全国の高専専攻科修了生を採用した企業の回答である。図4-3に示すように、「専門知識」の評価が53.2%であるのに対し、「誠実さ」が38.7%、「協調性」が22.6%となった。前回アンケートと比較すると、「専門知識」の評価は42%から上昇し、「誠実さ」は65%

から減少，“協調性”も42%から大幅に減少している。これら3つの項目は、他の項目に比べて高い値を維持しているものの、本校の学習・教育目標の項目2“国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う”に関する能力に対して企業の要望が強く、かつ評価も厳しいことの表れであると考えられる。

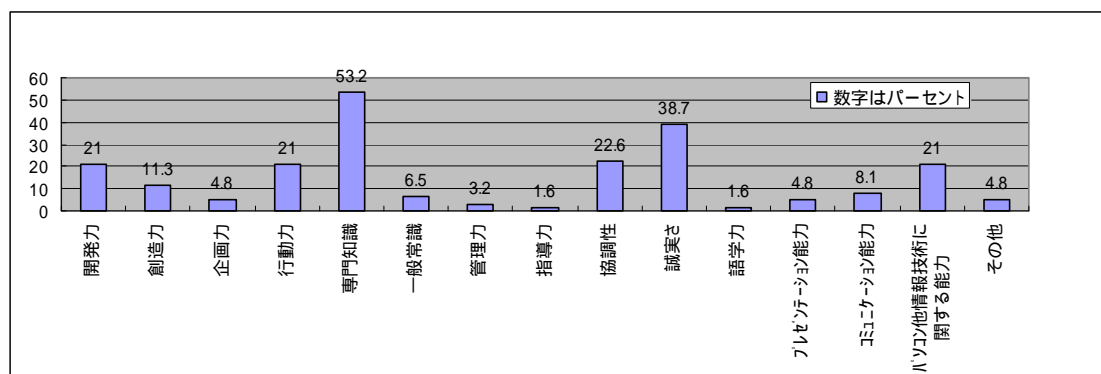


図4 - 3 大学の卒業生と比較した場合、優れている点

#### (6) 推奨する資格について【企業質問8】

アンケートに回答したすべての企業からの回答である。30件を超えた代表的な資格のみ示す。危険物取扱者(48件)、基本情報技術者試験(47件)、電気主任技術者(46件)、土木施工管理技士(44件)、ソフトウェア開発技術者試験(43件)、電気工事士(40件)、建築士(40件)、建築施工管理技士(36件)などとなっている。

#### (7) 入社時に TOEIC のスコアを考慮しているかどうかについて【企業質問9】

アンケートに回答したすべての企業からの回答である。“考慮している”と回答した企業が8.5%であり、前回アンケートの14%より減少している。スコアは“600点”が25%、“500点”が34%であり、前回アンケートに比べてより高い英語力が求められているようである。

#### (8) 入社時に情報処理の能力を考慮しているかどうかについて【企業質問10】

アンケートに回答したすべての企業からの回答である。“考慮している”と回答した企業が49%であり、前回アンケートの60%より低い。このことは、情報処理技術を考慮しなくなったということではなく、持っていて当然の能力として扱われていることによるものではないだろうか。考慮すると答えた企業のうち、CAD、表計算などの“ワープロ等の基本的な能力を超えた能力が必要”とした企業が前回アンケートと同じ58%であった。また、有資格者を求める企業は12.4%(前回:6.9%)と増加し、より専門的な能力が求められている。

(9) 今後、専攻科からの採用を考えているかどうかについて【企業質問 11】

アンケートに回答したすべての企業からの回答である。図4-4に示すように、“採用したい”が64.6%，“現時点ではわからない”が33.8%であった。その職種は、図4-5に示すように、前回アンケートと同様に“研究開発”、“設計”、“システム・エンジニア”、“施工管理”がほぼ30%程度で一番多かった。本科卒業生に比較すると、“研究開発”の割合が高く、専攻科修了生に対して研究・開発能力が求められていることがわかる。

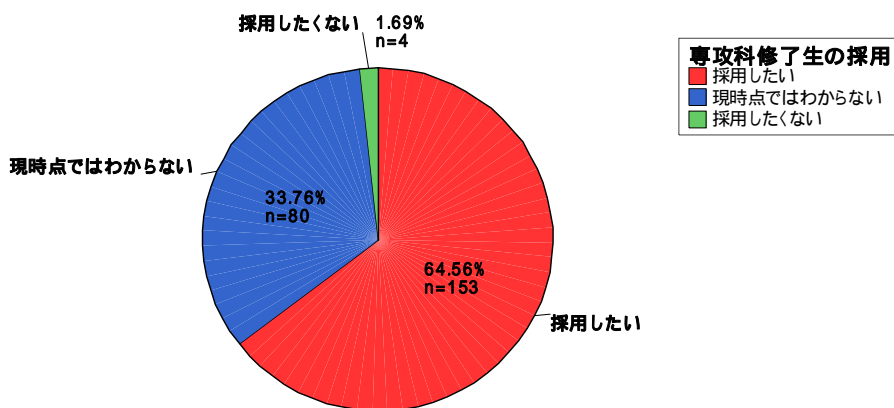


図4-4 専攻科生の採用について

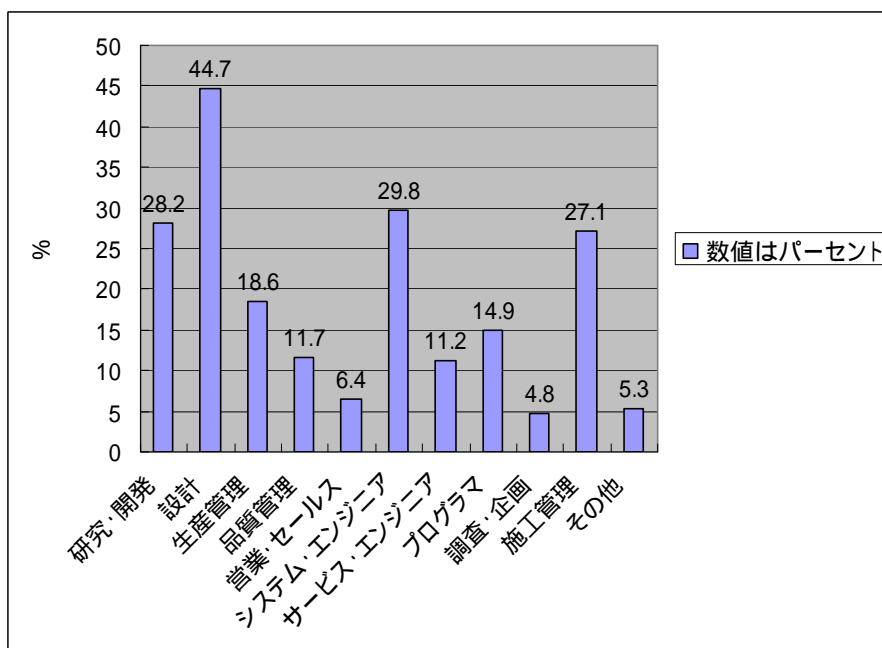


図4-5 職種

#### (10) インターンシップについて【企業質問 12】

アンケートに回答したすべての企業からの回答である。これまでインターンシップを“受け入れたことがある”という企業は全体の 28.4%であった。今後の受け入れに関しては、“今後受け入れたい”という企業は 32.0%、“一度話を聞いてみたい”という企業が 30.0%であった。なお、インターンシップの受け入れが困難と返答した企業の意見を以下に示す。

- ・ 受け入れ態勢が整っていない(21件)
- ・ 期間が長い(11件)
- ・ 期間が短い(1件)
- ・ 業種・職種から適当でない(5件)
- ・ セキュリティ上できない(5件)
- ・ 危険なため(5件)
- ・ 人的・設備的にできない(4件)
- ・ 負担が大きい(時間的余裕がない)(6件)

#### 4.3 本章のまとめ

本章では、徳山高専専攻科修了生に対するアンケート結果に焦点を絞り、本科卒業生および前回アンケートとの比較を行いながら本校専攻科修了生の社会的な評価について検討した。

徳山高専の専攻科修了生の平均的な仕事(勤務成績)に対する評価では、採用した企業の 81.5%が“非常に満足”または“満足”と回答しており、前回アンケートの 63%比較して大幅に向上している。また、徳山高専の教育目標に見合うだけの実力がついていないかについては、6項目すべてについて、4段階評価の3以上が 55~80%あり、本校の教育目標に見合った実力が概ね身についていると判断されている。徳山高専の複合教育についても、“適切である”と答えた企業が 76%(前回 82%)であり、社会的にもその有効性が認められていると思われるものの、企業ニーズが多様化していることがうかがえる。一方、大学の卒業生より優れている点については、前回アンケートと比較すると、“専門知識”の評価は 53.2%(前回 42%)、“誠実さ”は 38.7%(前回 65%)、“協調性”も 22.6%(前回 42%)と前回アンケートに比べて大幅に減少している。これら3つの項目は、他の項目に比べて高い値を維持しているものの、本校の学習・教育目標の項目 2“国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う”に関する能力に対して企業の要望が強く、かつ評価も厳しいことの表れであると考えられる。

最後に、専攻科生の今後の採用の是非については、すべての企業からの回答であるが、図 4.6 に示すように、“採用したい”が 64.6%、“現時点では分からない”が 33.8%であった。その職種は、“研究開発”、“設計”、“施工管理”がほぼ 30%程度で一番多かった。本科卒業生と比較すると“研究開発”の割合が多く、専攻科修了生に対して研究・開発能力が求められていることがわかる。

(担当：張間)